

報告

第64回粘土科学討論会 (オンライン長野大会)

樽田誠一*・岡田友彦*

*信州大学工学部

〒380-8553 長野県長野市若里4-17-1

第64回粘土科学討論会(長野大会)が、令和3年9月14日~18日の5日間、オンラインで開催されました。

この第64回討論会は、昨年9月に長野市の信州大学工学部を会場に行われる予定でありましたが、新型コロナウイルスの影響で延期になり、本年はどんな開催形式であれ、開催することが決められていました。実行委員会では、延期が決まった後も、現地での対面式の開催を想定して準備を進めてきましたが、本年5月の臨時理事会で、口頭発表のハイブリッド方式での実施、ポスター発表のリモート形式での実施および懇親会の中止が決まりました。その後、5-6月にコロナの第4波が収まってきたときには、ハイブリッド方式でも多くの参加者が現地に来ていただけるのではないかと、実行委員会では期待しておりました。7月に入るとコロナの第5波が始まり感染者が急増してきましたが、それでも7月および8月の理事会では、口頭発表はフルリモートの可能性を残したハイブリッド方式で開催することになりました。しかし、その直後、長野県での感染者急増により県の対策レベルが上がり、それに伴い信州大学の対策レベルも上がり、学内では学会等の開催ができなくなったことで、8月26日に会長、副会長、常務委員長、実行委員長の判断により口頭発表もフルリモート形式での開催になりました。

このように開催の直前まで口頭発表の実施方式が定まらなかったことで、ご心配やご迷惑をおかけいたしました。講演申込や参加申込を迷われた方も大勢いたのではないかと思います。この場をお借りして、お詫び申し上げます。他方、今回の開催に当たり、小暮敏博会長はじめ理事の皆様、佐藤 努常務委員長はじめ常務委員の皆様、国際文献社の川島様・鈴木様には多大なご支援・ご協力をいただきました。特に、佐藤常務委員長には、ポスター発表のオンラインでの実施を全面的に引き受けて

いただきました。ここに感謝申し上げます。

さて、第64回討論会では、特別講演1件、「粘土科学におけるSDGs」をテーマとしたシンポジウムの講演が5件、口頭発表39件、ポスター発表21件が行われました。参加登録者数は合計123名で、一般会員は正会員(共催学会員含む)88名、学生会員(共催学会員含む)12名、非会員一般が9名、非会員学生が14名でありました。

討論会初日の9月14日は、9時30分からZoomのA会場およびB会場において一般講演が行われました。写真1は、講演が開始される前のZoomの画面です。

11時からは小暮会長を議長としてZoomで総会が行われました。総会ではすべての議案が提案通りに採決されました。総会終了後には各賞の授賞式が行われ、従来であれば、小暮会長から賞状と記念品が手渡されるのですが、Zoomでの開催のため、賞状がZoomの画面に映されました。令和3年度の各賞の受賞者は次の通りです。学会賞：蛭名武雄会員、功績賞：井伊伸夫元会員、奨励賞：吉田 純会員、技術賞：原子力発電環境整備機構 技術部、論文賞：S. Aisawa氏、J. Sang氏、A. Masubuchi氏、H. Hirahara氏、E. Narita氏、論文賞：三好陽子氏・鈴木正哉氏・宮腰久美子氏・高木哲一氏

12時からの理事会に続き、13時30分からは、日本粘土学会前会長で早稲田大学の山崎淳司教授により「層状でない粘土鉱物、数話」という題目で特別講演が行われました。粘土鉱物とは何かを問われるような粘土鉱物の奥深さを実感できる貴重なご講演でありました。講演の最後に、感謝の意として、記念の賞状(写真2)をZoom画面に表示しました。この賞状は記念の盾とともに、後日、山崎先生に送られました。



写真1 講演開始前のZoomの画面



写真2 特別講演の記念の賞状

初日の最後に、14時10分から「粘土科学におけるSDGs」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。石原伸輔氏による「層状複水酸化物を用いたガス徐放材料：大気成分をトリガーとした固相-気相/固相-固相間アニオン交換反応と医療応用」、原孝佳氏による「CO₂のエポキシドへの化学的固定化反応に向けた層状Ni-Zn複塩基性塩触媒の開発」、宮原英隆氏による「粘土系吸着材を用いた省エネ・二酸化炭素削減への応用展開」、渡邊雄二郎氏による「精密農業を支えるスマートマテリアル～ゼオライトを用いた低環境負荷型培地の開発～」、蛭名武雄氏による「スギ由来リグニン系材料と粘土鉱物の複合材料開発とその応用」の5件の講演が行われました。シンポジウム内容の詳細は、そちらの報告をご参考ください。

討論会2日目の9月15日は、午前(9時30分から11時45分)と午後(13時30分から15時15分)の2回に分けて、初日と同じZoomの2会場で一般講演が行われました。

12時から常務委員会が行われ、そのなかで、第65回粘土科学討論会は9月7、8日に島根大学松江キャンパスを会場として行われること、第66回粘土科学討論会は仙台での開催を計画していること、が報告されました。

討論会3～5日目の9月16～18日には、ポスター発表

が行われました。今回のオンラインでの発表は、講演者が前日までにポスターセッション用プラットフォームにファイルを掲載し、参加者は期間内に自由に閲覧して質問や意見を書き込み、講演者がそれに回答するという方式でありました。講演者は、容量が100MBまでであれば、最大5つのファイルをプラットフォームに掲載できました。また、ファイルは、文字や図表のみのファイルだけではなく、音声付きのファイルや動画の掲載も可能で、これまでにない自由で新しい様式の発表が期待されました。実際に、Zoomで口頭発表をしているようなファイルなどがあり、講演者の創意工夫が感じられた新しいポスター発表になっていたと思います。質疑については、最終日にはたくさんの書き込みのあるポスターが多くみられ、文字によるものですが活発な討論が行われていました。掲載期間が3日間あり、ゆっくり見ることができたことも大きな特徴であったと思います。

今回の討論会はオンラインになり、実行員会ではネット回線の接続に不安を抱えておりましたが、すべての日程を大きなトラブルもなく終えることができました。参加登録された方を含め関係された全員の皆さまに御礼を申し上げます。

来年は島根大学で開催されます。対面での開催ができるようになることを切に願っております。